小学校
４年

グラフからわかることをまとめよう

河内長野市立川上小学校

教科	算数	単元名	折れ線グラフと表

本時のねらい

棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフから、２つの数量の変化の様子を読み取ることができる。

本時における１人１台端末の活用方法とそのねらい

棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフからわかることをそれぞれで考え、学習支援ソフトを用いて、自分の考えを書き込ませた。それを他の児童とすぐに共有することで、考えを深めることをねらいとした。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・学習者用端末（Chromebook）　・学習支援ソフト（Google Jamboard）　・デジタル教科書
・プロジェクター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 １０（分）	○学習課題をつかむ 「折れ線グラフと棒グラフが一緒になったグラフを読み取ろう」 ○前回までのグラフとの違いを確認する。	・プロジェクターを使い、教員用端末でデジタル教科書のグラフを、スクリーンに投影し、今回のグラフの特徴を全体で確認する。 ・プロジェクターを使い、教員用端末の画面をスクリーンに投影し、学習支援ソフトの使い方を確認する。
展開 ３０（分）	○各自、グラフからわかることを考える。 ・左右の縦軸と横軸は、それぞれ何を表しているか。 ・１番気温が高いところ、降水量が多いところはいつか。 ・折れ線グラフと棒グラフの関連性　等 ○友だちの考えを見て、自分の考えと比較する。 ・学習支援ソフトで共有し、友だちの考えを見て新たに気付いたことがあれば、自分のフレームに書き足す。 ○発表する。	・教員は、事前準備として、学習支援ソフトの出席番号のフレームに、あらかじめ使用するグラフを貼り付けておく。児童はそのグラフからわかることや気付いたことを、付箋機能を使って書き込み、グラフ上の当てはまるところに貼れるようにする。 ・他の人のフレームを自分の端末で見て、自分の考えと似ている意見や異なる意見などを見て自分の考えと比較する。この時、他の児童のフレームには書き込まないよう注意する。 ・発表する児童のフレームとプロジェクターをつないでスクリーンに投影し、さし棒などを用いて付箋やグラフを示しながら発表する。スクリーンでは見にくいという児童には、発表者の画面を共有して自分の端末の画面で見られるようにする。
まとめ ５（分）	○みんなが気付いたことから、「折れ線グラフと棒グラフを重ね合わせると、２つの関係が見やすくなる。」ことを確認し、まとめる。	・児童が作成したフレームの中から、まとめにつながるものを選び、プロジェクターで投影し、本時の学習内容をまとめる。

１人１台端末を活用した活動の様子

写真１：学習支援ソフトを使い、付箋機能で考えを書き込んでいる場面

写真２：学習支援ソフトで他のフレームを見て友だちの考えを確認している場面

写真３：プロジェクターで投影し、自分の考えをみんなに発表している場面

児童生徒の反応や変容

・学習支援ソフトで、すぐに友だちの考えを確認することができることから、もう１度自分のページに戻って書き足したり書き直したりする児童が多く、他者の意見を参考に自分の考えを、さらによいものにすることができていた。
・全体に対し発表する児童だけでなく、全員の意見を見ることができるため、自分の書いた考えもたくさんの友だちが見てくれるので学習意欲につながったと感じる。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・学習支援ソフトを使うことで、お互いの考えをすぐに共有することができたため、１人では考えにくい児童も、友だちの考えを参考にすることができたことが良かった。
・支援学級の児童にも支援学級の中で必要な支援をしながら学習支援ソフトに書き込んでもらう活動を行った。教室は違っても同じ時間に交流学級の友達と同じ教材を使って学習に取り組めたことで、児童が喜んで取り組めていたことがよかった。